

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4270600499		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム 五島		
所在地 (電話番号)	長崎県五島市大荒町1210 (電話) 0959-72-1833		

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年10月6日	評価確定日	平成20年1月17日

【情報提供票より】(19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	常勤	6人, 非常勤	1人, 常勤換算 7

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	(新築 / 改築)
建物構造	木造平屋造り	
	1階建て	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		850 円

(4) 利用者の概要(19月10日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82歳	最低	70歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	五島中央病院、聖マリア病院、よこやま歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

五島の自然な環境の中にホームはあり、綺麗な空、綺麗な空気、温かい人がたくさん住んでいる地域の中で、入居者の方々は生活をおこなっている。玄関や食卓に、季節の花や木の実を飾ったり、金魚やザリガニ等の飼育をして楽しんでいただいている。ベッドのシーツは毎朝しわ伸ばしされており、清潔感にあふれている。職員間のチームワークがとれており、ホーム全体が明るく、入居者の方も楽しそうに生活されている。入居者の方の持っているお力を発揮していただくよう、一緒に献立を考えたり、漁師特有の調理法(魚のさばき方)を教えていただいたり、食後の茶碗拭きや洗濯物たたみをしていただくなど日常生活の中で役割を持っていただくとともに、保存食(梅干し、らっきょなど)の作り方も教えていただいている。政治の解説をしてくださる方、日々の会話の中で昔からの知恵を教えていただく方など、お一人お一人のお力を発揮して活躍の場をより多く作れるよう配慮している。法人本部の支援も得られ、年に1~2回、同法人の栄養士に、食事の記録をチェックしてもらい助言をもらったり、法人本部の方で、2ヶ月に1度、職員向けの研修会を続けており、組織の強さも発揮できている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の外部評価後、改善書を全職員で検討しながら作成し課題を明らかにして改善に努めてきた。各居室に温度湿度計を設置し空調に注意するとともに、緊急対応マニュアルは見やすいところに置き、対応については勉強会や会議で話し合っている。ヒヤリハット報告書の記録を残し申し送りや会議で対応を話し合い事故防止に努め、3~4グループホーム合同でバーベキュー大会やバザーを開き地域の方と交流ができた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>まず、各職員に自己評価票を記入してもらった後、職員全員で話し合いをおこなった。新しい項目の意味を全員で考えながら評価、対策を検討し、最後は管理者がひとつにまとめていった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の中で、民生委員から「子供とのふれあい」をご提案いただいた。さらに、その民生委員の方に間に入っていただき、幼稚園との連携をおこなっていく取り組みが計画されている。また、会議のメンバーの一人である地区の代表の方へ、入居者の老人クラブへの参加を尋ねると、現在、既存のクラブの活動がゲートボールだが、囲碁等できる方にホームを訪問してもらえるよう提案していただけるようになった。有意義な会議になっていっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>本部が中心となり、年に2回、家族アンケートを実施している。内容は、各ホームにも知られるようになっている。また、家族の方が、面会時や電話のときに、少しでも話しやすい雰囲気職員は心がけ、意見を書き留めるものも作っているが、今のところ意見はいただけない。運営推進会議のときにいただいた市職員の方からの提案で、今年4月から「家族会」が発足し、年1~2回の活動をするようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>福江祭り、地区の運動会の見学、地域の清掃活動に参加している。自治会に加入し、回覧板等を回す当番を受け持っている。系列のホーム同士4棟合同のホーム主催のバザーを開催し、地域の人々に来ていただいている。ホームの方からも近所の方へ料理のおすそわけをしたり、近所の人からも古紙をいただくなど地域の方との交流を図っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の生活を大切に心安らげる生活の提供」という理念は、3年前の開設当時から主任を中心に全職員で話し合い作られたものである。現在もこの理念に親しんでいるため継続しており、地域にもグループホームというものについて理解が深まってきているが、理念の中に「地域で暮らしていく」と言う思いは表現されていない。	○	18年4月、運営者より「地域に目を向けた理念を考えるよう」働きかけがあったが、親しんだ理念を変更するのは難しくそのままになっていた。今後は「地域住民とともにその人の馴染みのある場所での生活を大切に」という思いを職員全員で表現していきたいと考えている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と合わせて、介護目標を職員全員で作成し、毎日の申し送りの中で理念の唱和をおこなう中で、理念の共有ができていく。ミーティングの際は必ず「その人らしさの尊重」の視点で職員間で話し合っており、日々の現場の中でも言葉かけなど気になるときは、職員同士お互いに注意しあい、全員が実践できるよう取り組みをおこなっている。	○	入居者を傷つけるような言葉かけはないが、ときに入居者をせかしてしまう言動がある。日々の現場や会議でも注意をしているが、今後お互いに「心安らげる生活」の提供ができるよう心がけていきたいと考えている。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	福江祭り、地区の運動会の見学、地域の清掃活動に参加している。自治会に加入し、回覧板等を回す当番を受け持っている。系列のホーム同士4棟合同のホーム主催のバザーを開催し、地域の人々に来ていただいている。ホームの方からも近所の方へ料理のおすそわけをしたり、近所の人からも古紙をいただくなど地域の方との交流を図っている。	○	運営推進会議の中でいただいた意見が発展し、民生委員の方の協力もあり、幼稚園児との交流への取り組みが計画されている。また地元の高校教諭がホームに直接来られ、職場体験の要請もあり、ホーム側はいつでも受け入れることを伝えている。今後、実現へ向けての取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行い、新しい項目の意味を一緒に考えながらまとめていった。昨年度の外部評価後、改善書を全職員で検討しながら作成し課題を明らかにして改善に努めてきた。「地域とのつながりを持つ」という点においては難しかったが、今後、地域とどのように関わることが課題であることが確認でき、職員間で話し合いを持つことで取り組みのふり返しをおこなう機会となった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は同法人内のホーム4棟合同で行われ、事業所からの報告や要望を聞いている。今までの会議の中で、参加メンバーの方からの意見と合わせて、質問も多く、毎回、回答をおこなうことでホームを理解していただくようにしている。外部評価の結果は、会議で報告するとともに、家族、市役所の方、地区の方にも配布して読んでいただき「こんなところまで気をつけていたのですね」と驚かれたり、励まされたりと、ホームの取り組みを理解していただいた。	○	会議のメンバーに利用者をお誘いしているが遠慮されて出席されない。堅苦しい雰囲気にならないよう、お茶会形式で取り組むなど利用者の参加も期待していきたい。会議録に参加者名、発言者、質問に対する回答の記入が明確でないため、今後の議事録作成にも期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	4つのホームの職員が交替で、運営推進会議の前には会議の案内状、後には報告書を市役所に持っていき、運営推進会議終了後、ホームの職員が個別に市の職員に相談しているが、気軽に相談に応じてもらっており助かっている状況である。	○	今後は、さらに市役所との連携をより深めるため、ホームの催しの案内状等を五島市に持っていきたいと考えており、より、ホームのことを市役所の方に理解していただける取り組みを期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は、健康面、暮らしぶりを特に気にかけているようなので、急な受診は電話連絡をとるようにしている。入居者毎に担当職員を決め、家族あてに、個別に、毎月ホーム便りと病院受診や生活ぶりを手書きで書いて郵送している。請求書は法人事務所から毎月郵送してもらい、小遣い程度の管理をしている分については、家族が面会時(およそ2～3ヶ月に1度位)確認していただきサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本部が中心となり、年に2回、家族アンケートを実施している。内容は、各ホームにも知らされるようになっている。また、家族の方が、面会時や電話のときに、少しでも話しやすい雰囲気職員は心がけ、意見を書き留めるものも作っているが、今のところ意見はいただけない。運営推進会議のときにいただいた市職員の方からの提案で、今年4月から「家族会」が発足し、年1～2回の活動をするようにしている。	○	家族会は、ホームの行事にあわせて参加していただけるようホームの方で検討をおこなっており、より家族の方が意見を言いやすい場になっていくことを期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は年に1度、同法人内での職員の異動があったが、運営者は、なるべく異動を少なくしようと考えており、回数は減ってきている。職員間の仲が良く、会議の時にお互いの悩みを聞きあったり、食事会を年2回おこない、主任を中心に職員全員が、日ごろからチームワークを大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の方で1人1人の職員の育成計画を立て、必要に応じた研修に参加をさせている。法人全体で、2ヶ月に1度、全員参加の研修会を続けており職員も参加している。また外部研修に行った職員からは会議の中で、伝達講習会がなされている。現場では、運営者や本部相談員、主任などが、職員の相談役、指導にあたり、相談しやすい環境を作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者、法人本部は、同業者との交流をおこなっていく必要性を理解しており、連絡協議会やケアマネ部会に職員を参加させている。また、研修会があれば職員を参加するよう働きかけている。	○	同法人内のホーム同士では、見学や合同学習は行っているが、外部の施設、ホームとの相互訪問まではできていない。今後連絡協議会やケアマネ部会の管理者に働きかけて、情報交換やネットワーク作り、相互訪問等行っていきたいと考えている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの入居が多いため、本部の相談員や職員が何度か病院を訪問して、入居予定の方と馴染みの関係を作るよう心がけている。家族の了解を得て、ホームの生活に慣れるまでは家族の面会を多く持っていただくようお願いしたり、事前に家族から本人の好みや嫌な事を教えていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から保存食(味噌、漬物、梅干、らっきょ等)の作り方を教えていただいている。元漁師の方からは、魚に応じたさばき方、調理法を教えていただいたり、「暑かね(暑いね)、きばれよ(頑張れよ)」と、職員を励ましていただく場面も多い。その都度、職員は、感謝の気持ちを入居者に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者は遠慮がちな方が多く、人前では希望を言わないことが多い。散歩、趣味をしているとき、病院の待合時、ドライブでの車中など、お一人お一人、個別に話しやすい場を作り、思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成にあたっては、あらかじめご本人、家族の意見、希望を聞きながら、かかりつけ医との相談した結果も踏まえ皆で話し合っ作成している。又、同一法人の管理者会議等で事例検討したり、ケアマネジャー同士でも検討している	○	「地域で暮らす」という視点が、計画に盛り込まれている方とそうでない方がおられる。散歩、ドライブなど、実際のケアの中では、実践されている方も多いため、今後、意識して計画の中にその表現を盛りこんでいかれることを期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期計画は半年ごと、短期計画はほぼ3ヵ月ごとの見直しをおこなっている。2週間に1度、中間カンファレンス、1ヶ月ごとに評価をおこない、ご本人、家族にも意見をうかがいながら介護計画作成の見直しをしており、状態が変化した場合、随時、見直しを続けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望に応じて、定期的受診の他、急な受診の対応や、毎日点滴が必要な方でもホームから通院で対応し早期退院をはかるなど、柔軟な対応をおこなうことができている。各入居者に対して、お墓や寺参りなど、職員の同行を行っている。また地域の方からも介護に関する相談を受けたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族などの要望を聞き、以前からのかかりつけ医で受療していただいている。希望のかかりつけ医が遠い場合等は、ご本人、家族に同意の上、協力病院で受療していただくようお願いするが強要はしていない。通院時、前もって入居者の状態や入居者が気にしていることを、職員から医師や看護師に伝えており、医療機関の信頼関係を維持するとともに、医師、看護師も、入居者への言葉かけを配慮してくださっている。通院の結果は、家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族は、状態の急変時などは「何かあったら病院で」と話される方がほとんどで、看取りについての意向は十分には聞いていない。過去、1例、看取りの希望があらわれたときは家族とも繰り返し話し合い、かかりつけ医とも連携を取りながらケアをおこなった。職員も看取りに対し前向きな姿勢を持っている。	○	今後、もっと明確なホームとしての終末期に対する方針の話し合いを進めていきたいと考えている。医療機関との詳細な打ち合わせやホームでの対策なども必要となってくるため、法人本部への相談を行うとともに、今後、ご本人や家族に対して、終末期に対する意向を可能な範囲で確認してみたいかがある。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が、入居者の居室を入室する時は、必ず声かけをおこない、その方に応じた話し方を気をつけている。否定的な言い方はしないようにしている。職員が個人情報に関する話をするときは、他に聞こえないよう配慮するとともに、情報の漏洩防止にも努めている。	○	入居者への言葉かけは優しくおこなうよう配慮しているが、時に入居者をせかす言葉がでていることがある。本人のペースに合わせ、せかすような言葉が出るときは今後お互いに注意し、入居者を尊重していきたいと考えている。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調にもよるが、希望を表せない方であっても、なるべくご本人のペースで自由に行動していただくようにしている。遠慮がちな入居者が多く、職員が気持ちを配慮しながら意識して声かけを行い毎日の過ごし方の希望を聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、漁師特有の調理法を教えていただいたり、買出し、下ごしらえ、味見、食後の片付けなど手伝っていただいている。時々外食したり、旬のものや菜園で取れたものを利用し調理している。切干大根の煮物は入居者の方々に好まれており、彩りにも配慮している。同じテーブルで職員も一緒に食事をしており、楽しい会話の中で楽しい食事となるよう、毎日心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者と話し合い、入浴時間を夕方してみたが、以前のままだが良いという入居者からの意見が多く、現在の午後入浴となっている。可能な限り自分で洗おうとされる方は自分で洗っていただき、持っているお力を発揮していただいている。入浴剤や夏みかんの皮などをお風呂に入れるなど、季節に応じた楽しい入浴となるよう配慮している。たまには温泉にお連れしたりして入浴を楽しんでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の方々に、長年培ってきたお力を発揮していただけるよう、食後の茶碗拭きや洗濯物たたみをしていただくなど日常生活の中で役割を持っていただくとともに、保存食の作り方や魚のさばき方を教えていただいている。政治の解説をしてくださる方、日々の会話の中で昔からの知恵を教えていただく方など、お一人お一人のお力を発揮して活躍の場をより多く作れるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居する前から良く行かれていた、海や公園、季節の花が咲いている場所、馴染みの地元の店、お墓参りなど、お好みの場所に個別に外出できるよう職員は対応している。車椅子の方にはリフト車を借りて出かけるなど、外出手段も工夫している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝6時から夜21時まで開放されており鍵はかけておらず、入居者の方には自由に出入りしていただいている。職員同士で声を掛け合い同敷地内のホームとも協力し、お一人お一人の行動の確認、見守りをおこなうとともに、近所の方にも見守りや必要時の連絡のお願いをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同敷地内にあるホーム3棟合同で、火災訓練をおこなっている。年2回実施し、全職員、入居者、消防署の方が参加し、火災時と合わせて、夜間を設定しての訓練もおこなっている。地域の方にも避難・誘導の協力をお願いしている。	○	現在、災害のための備品は用意されていない。どこに何をどのくらい準備して置けばよいか、法人本部の方も含めて検討して行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に1~2回、同法人の栄養士に、食事の記録をチェックしてもらい助言をもらっている。毎月、体重測定をおこない、定期検診のコメントも参考にしながら一人お一人の食事量を考慮している。水分摂取が少ない時には、甘いコーヒーやココア、暑いときでも好きな温かいお茶を出すなどして飲水量を増やしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食卓に、季節の花や木の実を飾ったり金魚やザリガニ等の飼育をして楽しんでいただいている。日差しに配慮したカーテンやよしずを使用しておりリビングにはソファやテレビを置いてくつろいでいただいている。いすの足に靴下をはかせて音に配慮しており、日中は窓を開け換気に心がけており、ポータブルトイレを使用する方には芳香剤を設置し、毎日干し、臭いが気にならないよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族とも相談しながら、衣装ケース、引出し、写真、位牌、愛用の水(ペットボトル)など持ち込まれており、入居者にとって慣れ親しんだものに囲まれるよう配慮している。ベッドのシーツは毎朝しわ伸ばしされており、清潔感にあふれている。		